

日本において、駅と街とは密接に関係している。
駅は街の顔であり、象徴である。
駅から街が発展し、街の表情を創り出す。

鉄道というインフラが
これほど生活の中心となっている大都市は他に類を見ない。
だからこそ、
駅はただ単に機能を満足するだけではない
特別なものへと、この国の文化として根付いた。

多彩な顔を持つ街、銀座。
この街は時代によってまた、
様々な表情をみせる。
時代の流れを顕著に映し出す鏡のごとく、

時を刻むことで、根付いていく街の色
それは憧れという想いで
人から人へと受け継がれていく。

変わっていく街並みと
変わらずにあり続ける、憧れとして。

人が写す街、人が作る駅
駅が写す街、駅が作る人
街が写す人、街が作る駅

ASUNO GINZA



■ 銀座口改札
— 品格・もてなし
プラットホームから星空でつながる改札口。サービスカウンターを広くわかりやすく配置。デジタルサイネージを設置し、限られたスペースを有効に、わかりやすい案内表示を行う。



■ コンコース
— 待ち合わせ
通路とたまりのスペースを緩やかにゾーン分け。デジタルサイネージが埋込まれた鏡面スクリーンは、待ち合う人々の客観的な姿を映し出し、マナーのよい待合空間を促す。



■ 西銀座口改札
— 自然（光・緑）
木漏れ日をテーマに、光と影を表現。壁面を最大限に利用したタッチパネルと緑化によって場所を特徴づけ、銀座口改札との明確な区別をつける。

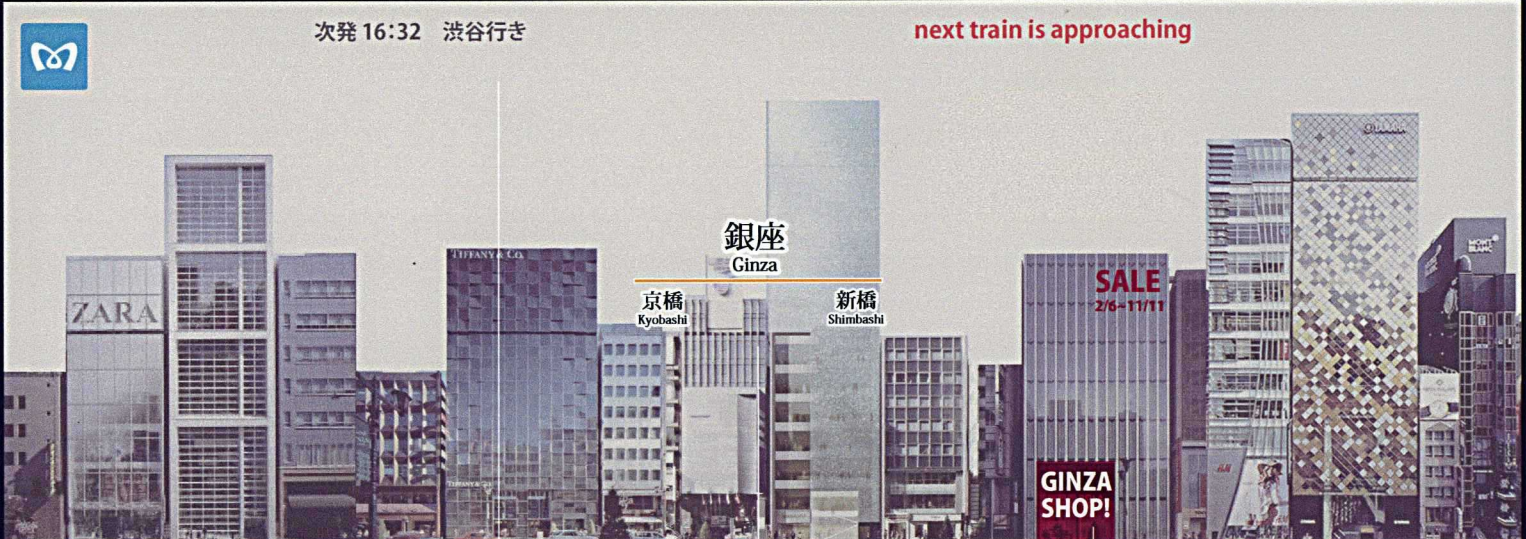
望ましい経験

— 横浜市在住 62 歳男性 元会社員

60 まで勤め上げた会社を定年退職し、自分の時間を持てるようになった。ゆとりある暮らしの中に幸せを感じる。嫁に出した下の娘には念願だった初孫も生まれ、妻と共に時の流れをしみじみと感じる。ふと、おもいたって妻をデートに誘ってみようと考えた。やはり少し照れくさい。若い頃を思い出して銀座へ行ってみると、そこにはモノトーンのきらめきを取り込んだ美しい地下空間が広がる。昔妻と一緒に歩いた懐かしい銀座の風景がプラットフォームに映し出されている。何とも言えない演出だ。街がカラフルに色づく分、色を抑えた空間は、都会的で、にぎやかさの中に静けさを漂わせる。大人の落ち着き、そんなもてなしを受ける。街への高揚感を引き立てる空間づくりに、始まって間もない久しぶりのデートは大成の予感がする。こんな駅があると知ったら、建築の仕事をしている息子も喜ぶだろうなあ・・・。

■ プラットホーム

銀座の街を構成するファサードはそれだけで美術作品の様。街が持っている最大の特長を生かし、銀座の街並みを大型 LED スクリーンに投影。現存するもの、しないもの。誰かにとってはかけがえのないもの。どの時代の銀座に出会うか、また一楽しみが生まれる。電車を待つほんの数分を銀座らしくもてなす空間づくり。



・大型 LED スクリーンは動画を含め、フレキシブルな利用が可能



■ 上家

上家としての機能と、視認性の高いサインとしての役割を街中アートとして見せる。慣れ親しんだロゴが、シンボルとして街をまたひとつ豊かにする。



銀座口側上家のロゴマーク部分は LED スクリーン仕様とし、4 パターンの表示切替に加え、街の催事と連携した使用などフレキシブルな活用を想定。西銀座口側上家はロゴマーク部分をパネル仕上げとする。屋根はガラスを使用することで、地下コンコース内まで自然光を取り入れる。

